

研修報告 C-2班 劇団C季

「社会人基礎力の養成～あと一歩踏みだ層をターゲットにして～」

大学の役割とは

ステークホルダーは共通して大学に、社会人基礎力の養成を求めている。

大学が取り組むべきこと

学生が社会に出るための準備として、大学は経験の場（選択肢）を提供し、社会人基礎力を養成するための取組（環境づくり）を行う必要がある。具体的には、下記のような取組であるが、国からも推奨されている取組ということで近年多くの大学で実際に導入されている。

〈具体的な取組〉

- ・ 企業と連携
- ・ 学生どうして学び合う機会 ex)グループ討議
- ・ プロジェクト科目（課題解決型）の実施
- ・ アクティブ・ラーニング科目の実施

⇒社会に出る準備が出来る環境は整っているといえる。

大学の現状

進学率が上がり、大学全入時代に突入した。そのため、目的意識もなく、なんとなく進学する学生が増加傾向にある。やりたいことが漠然としている学生が多いのが現状であり、この手の学生は主体性が低い。

その結果、学生のタイプは二極分化の傾向にある。

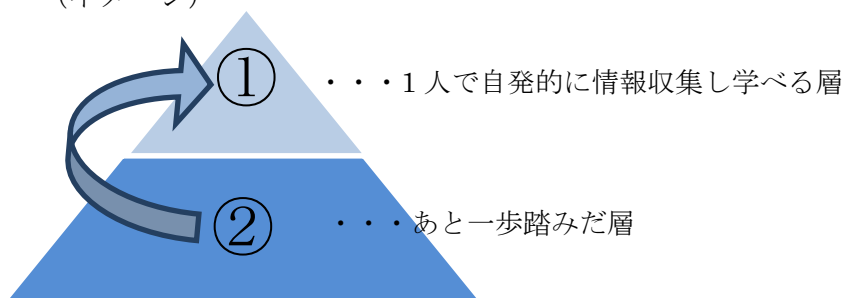
①一人で自発的に情報収集し学べる学生

②そうじゃない学生

＝大学が行っている様々な取組に対して、なかなか一歩が踏み出せず行動出来ない学生

私たちの班では②のような学生層を「あと一歩踏みだ層」と名付けた。

(イメージ)



大学の役割を果たすために「あと一歩踏みだ層」を押し上げる仕組みが必要である。

解決策の検討

なぜ、「あと一步踏みだ層」の学生は踏み出せないのか？

目標も悩みも漠然としすぎている。どんな情報が欲しいかもぼんやりしている。

何をしたらよいのか分からない状態にある。

そんな彼らに対して

- 自分に自信をつけさせる
- 道標を提示する

ことが大切ではないかと考える。

大学のイノベーションの提案

「学習支援ポートフォリオの提案」

【学習支援ポートフォリオとは】

履修登録・レポート提出システム・講習会やセミナー等の課外活動予約システムと連携し、4年間の履修状況・成績・提出レポート・プログラムへの参加記録を残し、自らの学びを「見える化」するシステム。限定的に他者の学びを参照することも可能。「学び」の良いモデルがあれば、職員が学生本人に交渉し、公開することで、悩める学生に対してモデルケースの紹介ができる。

【利点・期待できる効果】

- なんとなく気になっている、あの進路へ進んだ先輩方の学びの情報を、キャリアセンター等の窓口に行かなくても気軽に取得できる。
- 自分自信の学びを可視化して蓄積しておけるため、自己分析にも困らない。
- ポートフォリオを活用し、自分自身の学びや成長を実感することで、自信につながり更なる踏みだしが期待できる。

【成果指標】

- 実施プログラム等紹介ページアクセス数向上
- 実施プログラム等参加率の向上
- 学習支援ポートフォリオ アクセス率 8割超
- 卒業後満足度アンケートを実施し、ポータルサイトについての満足度について高評価を得ることができる
- 就職率 UP

【課題】

- 導入時は、導入目的や利用・操作方法を理解してもらうための周知徹底が必要。
- ポートフォリオをスマホから眺めることすらしない場合は結局 **Face to Face** の対応頼み。
(スマホのアプリのように気軽にアクセスできる工夫が必要)
- 導入当初は在学生在が参照できる情報が少ない。
- ポートフォリオの導入によって、社会人基礎力がある学生が増えたと言いつらい(学習効果がはかりづらい)。

以上